

The 38th Annual Meeting of Japanese Society of Emergency Pediatrics

第38回日本小児救急医学会学術集会

The 32nd Annual Congress of Japanese Society of Pediatric Intensive and Critical Care

第32回小児集中治療ワークショップ

テーマ

小児の救急と集中治療を科学する
～予防から回復まで～

“Academic” Paediatric Emergency & Critical Care Medicine
～ from Prevention till Normalization ～

併催：The 17th Japan Resuscitation Science Symposium (J-ReSS)

第17回日本蘇生科学シンポジウム

テーマ

“救命の連鎖”を科学する
～予防から回復まで～

プログラム・抄録集

会長： 第38回日本小児救急医学会学術集会

清水 直樹（聖マリアンナ医科大学小児科学講座 主任教授）

第32回小児集中治療ワークショップ

黒澤 寛史（兵庫県立こども病院小児集中治療センター センター長）

第17回日本蘇生科学シンポジウム

新田 雅彦（大阪医科薬科大学小児科学教室・救急医学教室）

会期： 2025年7月4日(金)～6日(日)

※第17回日本蘇生科学シンポジウム 7月5日(土)

会場： 虎ノ門ヒルズフォーラム

東京都港区虎ノ門1-23-3

大会HP： <https://jsep38.umin.jp/>

開催概要

1.学会名称

第38回日本小児救急医学会学術集会 / 第32回小児集中治療ワークショップ
併催：第17回日本蘇生科学シンポジウム

2.テーマ

第38回日本小児救急医学会学術集会
第32回小児集中治療ワークショップ
小児の救急と集中治療を科学する ～予防から回復まで～
“Academic” Paediatric Emergency & Critical Care Medicine
～ from Prevention till Normalization ～

併催：第17回日本蘇生科学シンポジウム
“救命の連鎖”を科学する～予防から回復まで～

3.会期

2025年7月4日（金）～6日（日）
※第17回日本蘇生科学シンポジウム 7月5日（土）

4.会場

虎ノ門ヒルズフォーラム
東京都港区虎ノ門1-23-3

5.会長

第38回日本小児救急医学会学術集会
清水 直樹（聖マリアンナ医科大学小児科学講座 主任教授）
第32回小児集中治療ワークショップ
黒澤 寛史（兵庫県立こども病院小児集中治療センター センター長）
第17回日本蘇生科学シンポジウム
新田 雅彦（大阪医科薬科大学小児科学教室・救急医学教室）

6.主催

第38回日本小児救急医学会学術集会 / 第32回小児集中治療ワークショップ 実行委員会
第17回日本蘇生科学シンポジウム 実行委員会
一般社団法人日本小児救急医学会
特定非営利活動法人日本小児集中治療研究会
一般社団法人日本蘇生協議会（JRC）

7.学術集会事務局

第38回日本小児救急医学会学術集会/第32回小児集中治療ワークショップ

聖マリアンナ医科大学小児科学講座

兵庫県立こども病院小児集中治療センター

第17回日本蘇生科学シンポジウム

大阪医科薬科大学小児科学教室・救急医学教室

8.運営事務局

株式会社MA コンベンションコンサルティング

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7 麹町パークサイドビル402

TEL：03-5275-1191 E-mail：jsep38@macc.jp

ご 挨 拶



第38回日本小児救急医学会学術集会

会長 清水 直樹

(聖マリアンナ医科大学小児科学講座 主任教授)



第32回小児集中治療ワークショップ

大会長 黒澤 寛史

(兵庫県立こども病院小児集中治療センター センター長)

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げますとともに、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、第38回日本小児救急医学会学術集会と、第32回小児集中治療ワークショップとを合同で開催させていただく運びになりました。会期は2025年7月4日（金）から6日（日）、会場は虎ノ門ヒルズフォーラム（東京都港区）です。テーマは「小児の救急と集中治療を科学する～予防から回復まで～」といたしました。

小児救急医療と小児集中治療とは、これまで渾然一体と議論されることがしばしばでした。小児救急医療にはゲートウェイとしての巾広い使命があり、小児集中治療には最後の砦としての確固たる役割があります。両者は密接に関連する必要がある一方、決して同じ専門性ではありません。ともに中途半端にならないようにするためにも、それぞれの専門性を見つめるとともに、それぞれの専門性が学問として成熟する過程を相互に高め合うことが必要です。今回、日本小児救急医学会と日本小児集中治療研究会とが学術集会・ワークショップを合同開催できたことは、そうした観点で画期的なことであり、その実現に向けてご賛同ご協力くださった皆様には、心から感謝申し上げます。さらに、救急医学と集中治療医学の両者に関わる蘇生科学を司る日本蘇生協議会のご協力を得て、日本蘇生科学シンポジウムを併催することともなり、2025年の救急蘇生ガイドライン改訂を前に活発な議論が交わされることが期待されます。

救急や新生児医療が在野の臨床から始まり、最終的に医学教育の現場に独立性を持った専門性として認められるまでには長い年月を要し、関係各位のご苦勞はひとかたならぬものがあったと想像します。

しかし今や、救急医学や新生児医学について、その特性を理解しないアカデミアの医療従事

者は、もはや存在しません。小児救急医療と小児集中治療も、臨床の側面では欧米豪に遅れながらも今世紀に入ってから着実に成長してきました。しかしながら、その学問としての独立性、さらに医学教育における個別認識が確立されているかという点、否です。

小児救急医療は、決して緊急患者や重症患者だけを対象とする学問ではありません。例えば非緊急でも軽症でも、保護者にとっては深刻な事態ですから、豊かな想像力をもって保護者の不安を癒すことが必要です。一方で、働き方改革の中でこうした不安に対峙しつつも、より効率的に小児救急医療を実践し、医療資源をいかに適切に再配分するかもこれまで以上に真剣に問われています。

小児集中治療には、周術期管理、院内危機管理、院外三次救急患者管理の3つの柱があり、多様な対応力を求められます。しかし、どのような患者であっても、その治療やケアの基本は同じです。小児急性期医療全体を俯瞰した時、その基本を多くの医療者が身につけることが、小児に適切な医療を提供することにつながります。小児の重症化を予防する。重症化の徴候を早期に認識し、適切に対応する。回復の過程をみすえた治療やケアを実践する。この一連の流れを整えてこそ、小児とその保護者のための急性期医療体制と言えます。

救急医療と集中治療はシームレスにつながっているのに、医療者がそれを分断しがちです。小児救急・集中治療の連携を礎とした、よりよい小児急性期医療体制を整えるために、私たちに何ができるのか、何をすべきなのか、現場では何を学ぶべきなのか。急性期医療の専門家として、その急性期だけを捉えていては未熟です。発生防止である Prevention から、発生後の bio-psycho-social integration すなわち Normalization を目指さなければなりません。本会を小児救急医療のエキスパートと小児集中治療のエキスパート、そしてそれらを学ぼうとする多くの医療関係者が集い、小児急性期医療の未来を考え、実践を学ぶ機会にしたいと考えております。

こうした臨床面の研鑽はもちろん重要ではありますが、今日救えなかった命を明日には救うための break through となるダイナミックな医学研究なくして、将来の発展は見込めません。さらに、将来の臨床と研究を担う医学生に対する医学教育の充実なくして、私たちの未来はありません。小児救急医療と小児集中治療は、先人が築いてきた臨床の実績を礎に、これら分野の研究と医学教育の充実に向けてさらに力を入れてゆく時として、潮が満ちたのです。

集中治療医学の黎明期に、Academic Critical Care Medicine という用語を初めて用いられたのが、平澤博之先生でした。今回の学会では、小児救急医療と小児集中治療がそれぞれアカデミアにおける存在を認められるよう、平澤先生をお招きして教えを請えればと考えています。また、医師であり文学者でもある海堂尊先生をお招きして、サイエンスとアートについて

もお話をいただく予定です。さらに、小児蘇生領域のワールドトップリーダーである、Vinay Nadkarni先生に現場で最新のお話をいただけることになったのも嬉しい限りです。

これまでにない今回の学会企画が、小児救急医学・小児集中治療医学・小児蘇生科学のさらなる飛躍につながる議論の場となることを祈念して、挨拶の言葉とさせていただきます。

末筆になりましたが、皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹 白

ご 挨 拶

第17回日本蘇生科学シンポジウム

大会長 **新田 雅彦**（大阪医科薬科大学小児科学教室・救急医学教室）



このたび、第17回日本蘇生科学シンポジウム（Japan Resuscitation Science Symposium：J-ReSS）の開催にあたり、皆さまにご挨拶申し上げます。本シンポジウムは、第38回日本小児救急医学会学術集会および第32回小児集中治療ワークショップに併設し、2025年7月5日（土）に虎ノ門ヒルズフォーラムにて開催いたします。J ReSSは、2008年に第1回が開催されて以来、日本蘇生協議会（Japan Resuscitation Council：JRC）の参画学会が主催し、国内外で高い評価を得ている蘇生科学のシンポジウムです。小児領域では、2017年の第10回（日本周産期・新生児医学会主催）、2018年の第11回（日本小児科学会主催）に続き、今回が3回目の開催となります。本シンポジウムは、蘇生に関する最新の知見と課題を共有し、今後の医療現場における蘇生科学の発展を目指して開催されてきました。

今回のテーマは、「“救命の連鎖”を科学する～予防から回復まで～」です。わが国では、2010年より小児と成人の“救命の連鎖”が統一され、成人においても予防の重要性が強調されました。さらに、一次救命処置においても成人と小児が同じアルゴリズムを用いることが決定され、米国や欧州とは異なり、小児と成人の隔たりを取り払い、同じ戦略で救命率の向上を目指すこととなりました。また、2010年は、蘇生法元年とされる1960年から50周年にあたり、CPRの開始手順がABCからCABに変更された年でもあります。この2025年、新たな蘇生ガイドラインが発表される年に、これまでの15年間の歴史を科学的に振り返りたいと考えております。本シンポジウムでは、小児と成人の隔たりをなくし、多職種や企業の方々にも多数ご参加いただき、“救命の連鎖”の視点から、わが国における心肺蘇生を科学的に見つめ、蘇生科学の推進を目指す場となるよう鋭意準備を進めております。

皆さまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

※羽田空港第1ターミナルからリムジンバスに乗った場合。
最寄の停留所は森タワーに到着の「アンダーズ東京」。
停留所「虎ノ門ヒルズ」はビジネスタワーに停車します。

●虎ノ門ヒルズフォーラムへのアクセス

〒105-6305 東京都港区虎ノ門 1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー 5 階



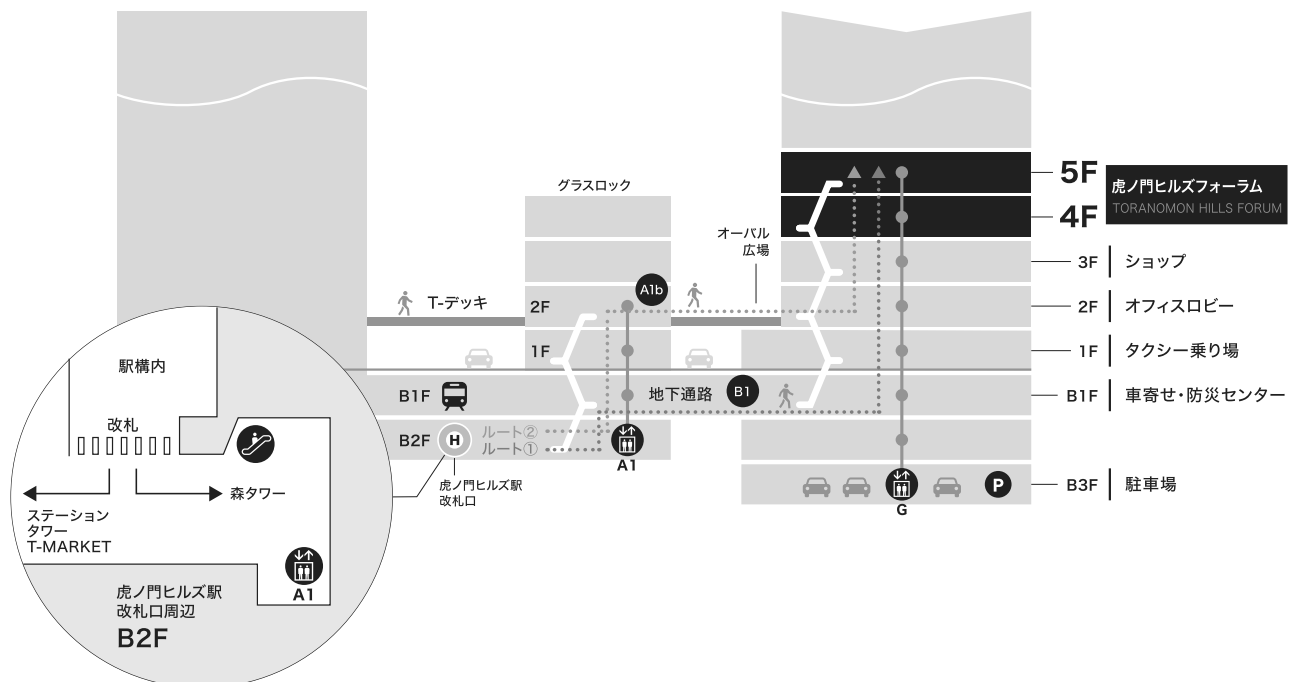
- 日比谷線
「虎ノ門ヒルズ駅」
- ① B1 出口
- ② A1b 出口

- 銀座線
「虎ノ門駅」
- ① B1 出口
- ② B4 出口
(2 階デッキ経由)

●虎ノ門ヒルズ駅からのアクセス

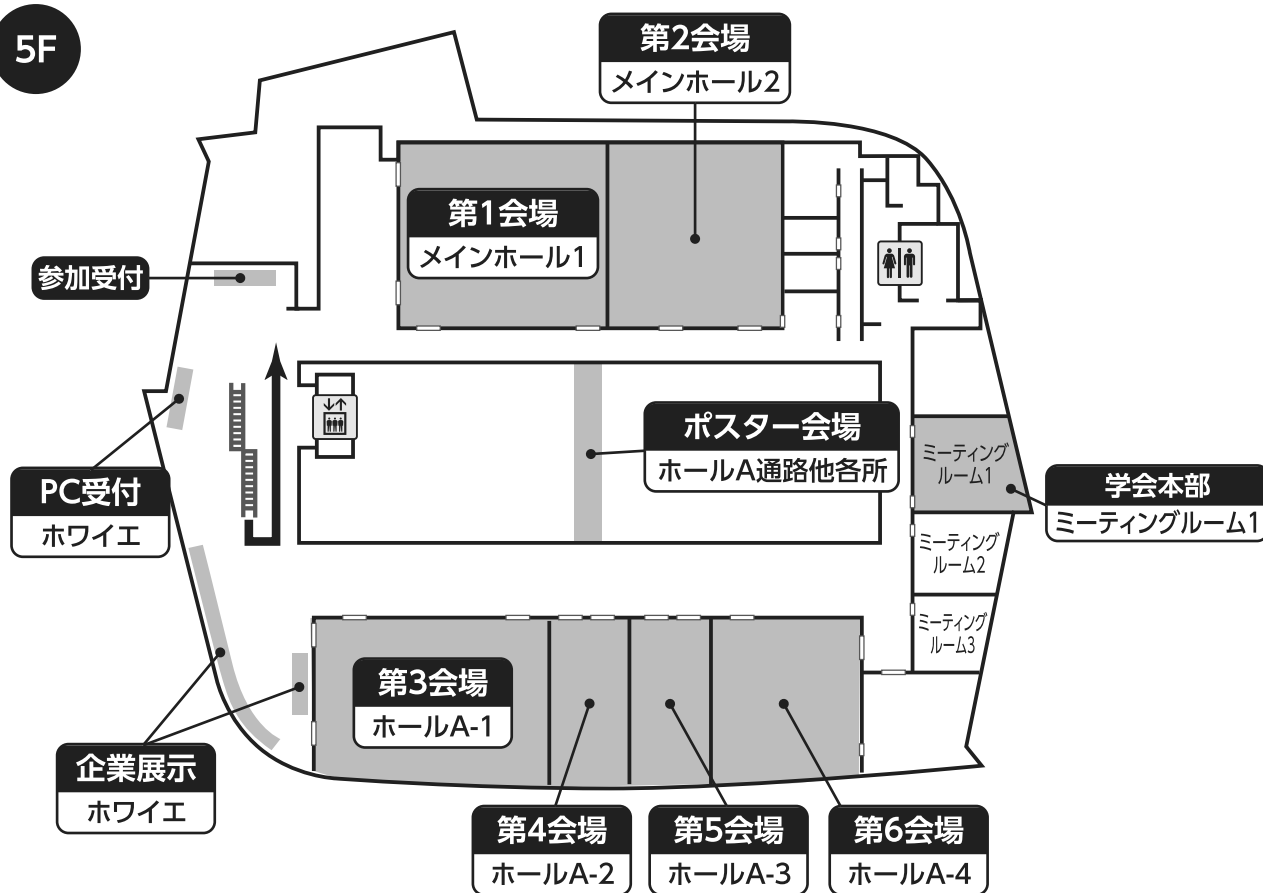
虎ノ門ヒルズ
ステーションタワー

虎ノ門ヒルズ
森タワー

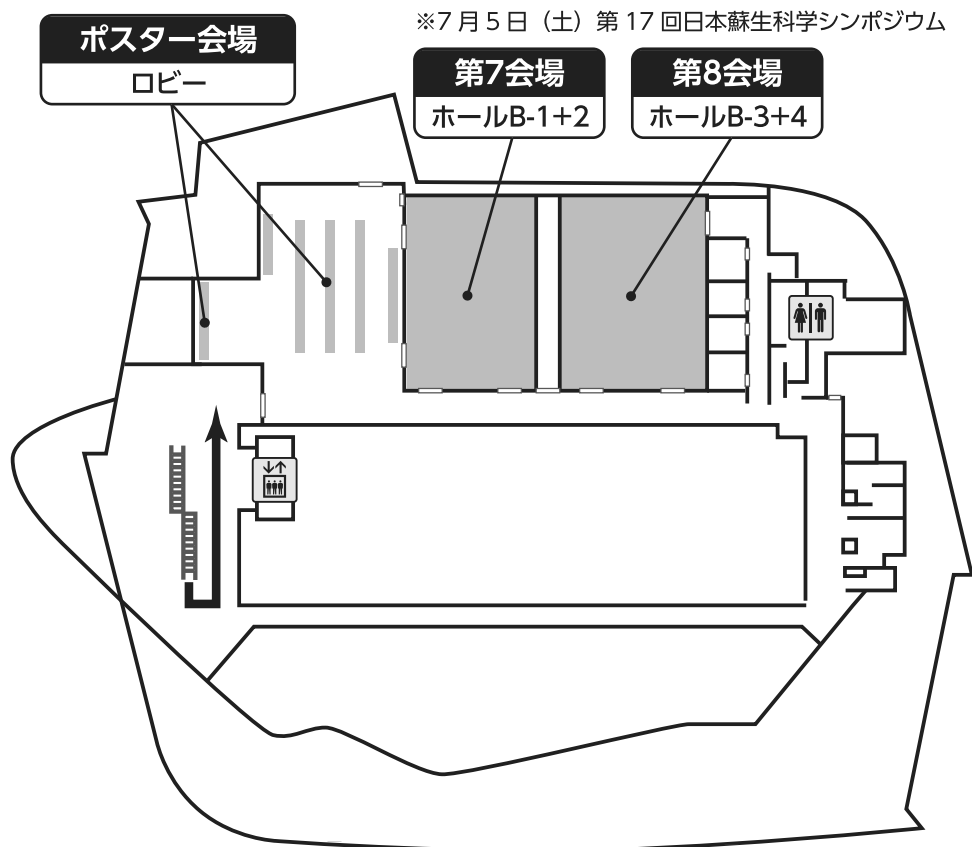


フロアマップ

5F



4F



各種委員会のご案内

確定情報を随時ホームページに掲載いたしますので、大会HPをご覧ください。

関連セミナーのご案内

確定情報を随時ホームページに掲載いたしますので、大会HPをご覧ください。

参加者の皆様へ

本学術集会は現地開催のみとなり、
WEB配信（ライブ、オンデマンド）はおこないません。

1. 開催形式について

現地開催：2025年7月4日（金）～6日（日）

2. 参加登録について

■参加資格

日本小児救急医学会員、日本小児集中治療研究会員、その他医療従事者
（医師・看護師・研修医師・医学生・看護学生・救急隊員等）

- ・本学術集会に参加される方は、必ず参加登録をおこなってください。
- ・一般演題における筆頭著者は日本小児救急医学会の会員あるいは日本集中治療研究会の会員に限ります。
- ・新入会手続きは会場でも受け付けます。

※新入会・年会費につきましては、参加受付近くの本部事務局デスクへお越しください。

一般社団法人日本小児救急医学会事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-15-11 イマキイレビル 1F

TEL：03-3352-4011 FAX：03-3352-5421 E-mail：jsep@convention-axcess.com

■参加登録期間

2025年6月6日（金）12：00～7月6日（日）17：30

オンライン参加登録制とさせていただきます。

学会ホームページより、オンライン参加登録・決済を完了してください。

※当日、会場での参加登録（参加費支払い）は、できません。

◇参加費

日本小児救急医学会

会員	医師（研修医、大学院生を含む）・企業社員	20,000円	不課税
	看護師、救急隊員、その他医療従事者	14,000円	
非会員	医師（研修医、大学院生を含む）・企業社員	22,000円	課税／消費税10%込
	看護師、救急隊員、その他医療従事者	16,000円	
学生（大学院生は除く）※		参加費免除	

日本小児集中治療研究会

会員	医師（研修医、大学院生を含む）・企業社員	20,000円	課税／消費税10%込
	看護師、救急隊員、その他医療従事者	14,000円	
非会員	医師（研修医、大学院生を含む）・企業社員	22,000円	
	看護師、救急隊員、その他医療従事者	16,000円	
学生（大学院生は除く）※		参加費免除	

上記いずれかの参加登録ページから、参加登録をお願いいたします。

上記いずれのページで参加登録した場合も、第17回日本蘇生科学シンポジウムを含む全てのプログラムに参加可能（事前に受講者を募集する一部のセミナーを除く）です。

第17回日本蘇生科学シンポジウムのみ参加

参加費	3,000円
-----	--------

第17回日本蘇生科学シンポジウムのみご参加の方は、参加費は会場で現金にてお支払いください（オンライン参加登録はございません）。

※参加登録時、所定の身分証明書の添付が必要となります。

- ・参加費の決済方法は、クレジットカード決済のみです。
（支払い期限は、お申込日の翌日から3日間となり、期限を過ぎますと自動でキャンセルとなります。）
- ・参加登録完了後、自動送信メールをお送りします。メールが届いていない場合は、ホームページよりお問合せください。
- ・お支払いいただいた参加登録費の返金、および参加カテゴリーの変更はお受けいたしませんので、登録の際は十分にご注意ください。
- ・参加登録後に送信されるメールに記載のQRコード（参加章引換券）を印刷もしくはスマートフォン等にダウンロードして、当日会場にお持ちください。

◇会場参加受付デスク（5F ロビー）

7月4日（金）8：00～18：00

7月5日（土）8：00～17：30

7月6日（日）8：00～17：30

※詳細は、学会ホームページよりご確認ください。

3. ポスターセッション（懇親会）

7月5日（土）17：30～19：30（うち17：45～18：30 ポスターセッション）

会 場：4F・5F ロビー

参加費：無料

※ドリンクをご用意します。

4. 単位取得について

本学術集会では、以下の単位取得が認められております。

＜全参加者＞

日本小児科学会／日本専門医機構 専門医更新 参加単位 iv) B：1単位

日本専門医機構救急専門医 更新単位：1単位

＜受講者のみ＞

該当セッションを受講した際の単位詳細につきましては、現在申請中です。

確定情報は、大会HPにてご確認ください。

5. 抄録集

日本小児救急医学会員の方は、日本小児救急医学会員ページからPDF データにて閲覧できます。

日本小児救急医学会員以外の方は、参加登録後に抄録集PDFデータにアクセスいただけるようになります。

あわせて抄録集アプリもご利用ください。

冊子版ご希望の際は、会場で3,000円にて販売しておりますが、数に限りがありますことをご了承ください。

6. 日本小児救急医学会会員総会

日時：7月6日（日）12：55～13：25

会場：第1会場（5F メインホール1）

会員総会にて各賞の授賞式を開催いたします。

7. ランチョンセミナー

ランチョンセミナーはチケット制ではございません。直接各会場へお越しください。

お弁当の配布は先着順となります。数に限りがございますのでご了承ください。

8. 服装

クールビズ、ノーネクタイでご来場ください。運営スタッフもクールビズでお出迎えいたします。

9. 撮影・録音について

講演会場内での撮影・録音は、学会側が認めた場合以外、禁止となります。また、肖像権保護のため、講演会場以外でも許可なき撮影・録音はご遠慮ください。

Web視聴ページ内の写真、スライド、映像、音声の著作権は、著作者、団体に帰属します。画面の録画、静止画記録、録音での保存や転載は固く禁止いたします。ご協力いただきますようお願いいたします。

座長・演者の方へ

1. 座長の方へ（PC発表）

座長受付はございません。

参加受付後、ご担当セッション開始予定時刻の10分前までに、会場内「次座長席」に必ずご着席ください。プログラムの時間通りの進行にご協力ください。

2. 演者の方へ（PC発表）

参加受付後、ご発表セッション開始予定時刻の30分前までに、PC受付をおこなってください。ご発表セッション開始10分前までに、会場内「次演者席」に必ずご着席ください。

1) 講演時間

指定演題	各セッション事前にご案内いたします。座長の指示に従ってください。
一般演題	1演題：11分（発表6分＋討論5分）

※プログラムの時間通りの進行にご協力ください。

2) 発表方法に関しまして

① 発表形式はPC発表です。

スライドやビデオは使用できませんのでご注意ください。

② 発表データは、16：9、4：3、いずれのサイズでも可能です。

③ 会場へは、USBメモリ、PC本体のいずれかの形で発表データをお持ち込みください。

④ ご発表セッション開始30分前までにPC受付にて発表データの試写と受付を済ませてください。

PC持ち込みの方も、30分前までにPC受付へお越しください。

⑤ PowerPointの「発表者ツール」機能は使用できません。発表原稿が必要な方は予めプリントアウトをお持ちください。

⑥ PC受付のパソコンは台数が限られております。

受付パソコンを独占しての長時間のデータ修正はご遠慮ください。

学会場ではレイアウト修正のみとし、データ修正等は事前に済ませてからPC受付へお越しください。

⑦ 演題申込時、利益相反申告書を運営事務局へお送りいただいていない方は、必ずお送りください。（詳細は大会HP内【演題募集】ページをご覧ください。）

3) USBメモリでのデータ持ち込みの場合

① ソフトは、以下のものをご使用ください。

Microsoft PowerPoint

※Macをご使用の方は、PCをお持ち込みください。

※動画ファイルをご使用の方は、PCをお持ち込みください。

② フォントはOS標準のもののみご使用ください。

4) ノートPCをお持ち込みの方への注意事項

① バックアップとして、必ずメディア（USBメモリ）もお持ち込みください。

② PC受付の液晶モニターに接続し、映像の出力チェックを行ってください。

※PCの機種やOSによって、出力設定方法が異なります。

③ プロジェクターとの接続ケーブルは、HDMIです。

PCによっては専用のコネクタが必要になりますので、必ずお持ちください。

※特に小型PCは、別途付属コネクタが必要な場合がありますので、くれぐれもご注意ください。

④ スクリーンセーバー、省電力設定は事前に解除をお願いいたします。

- ⑤ コンセント用電源アダプタを必ずお持ち込みください。

※内蔵バッテリー駆動ですと、ご発表中に映像が切れる恐れがあります。

5) PC受付オープン時間 (5F ロビー)

7月4日 (金) 8:00～18:00

7月5日 (土) 8:00～17:30

7月6日 (日) 8:00～17:30

※お預かりした発表データは、学会終了後、事務局で責任をもって完全消去いたします。

3. 座長の方へ (ポスター発表)

時間通りの進行をお願いいたします。座長受付はございませんので、ご担当されるポスターパネルの前でご待機ください。

※ポスター発表中、タイムキーパースタッフはおりませんので、1演題9分 (発表6分、質疑応答3分) を目安に進行管理ください。

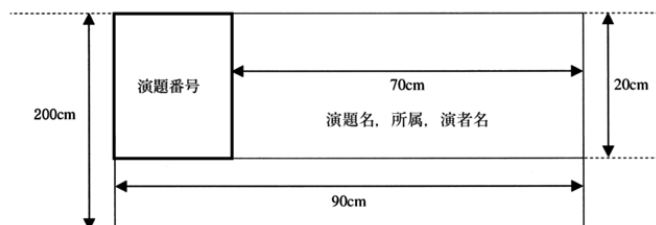
4. 演者の方へ (ポスター発表)

- 1) 下記の掲示時間内にプログラムに掲載されている演題番号の指定パネルに掲示してください。

※会場へのポスター直送、事務局受取はできません、会場施設への直接のお問い合わせもご遠慮ください。

- 2) パネルの有効部分は、縦200cm×横90cmです。演題名、所属、演者名は縦20cm×横70cmの枠内におさめてください (下図参照)。

演題番号は事務局で用意いたします。パネルへの掲示固定には会場受付に用意した画鋏をご使用ください。



- 3) 発表者は発表開始時刻10分前までに、演者用リボンを着けてパネルの前で待機してください。

ポスター発表：発表6分、質疑応答3分、時間厳守をお願いいたします。

- 4) ポスター掲示、発表、撤去時間は以下の通りです。

掲 示	7月5日 (土) 9:00～12:00
発 表	7月5日 (土) 17:45～18:30
撤 去	7月6日 (日) 13:30～16:00

※上記以外の時間は閲覧時間とします。掲示、閲覧は7月5日 (土) からになります。

撤去時間内に撤去されないポスターは事務局側で処分します。

処分ご希望の方も必ずポスターをパネルから外し、付近の床にまとめておいてください。

※ポスターケースは処分できません、必ずお持ち帰りください。

- 5) 演題申込時、利益相反申告書を運営事務局へお送りいただいていない方は、必ずお送りください。
(詳細は大会HP内【演題募集・採択結果・COI】ページをご覧ください。)

第38回日本小児救急医学会学術集会/第32回小児集中治療ワークショップ

実行委員（50音順、敬称略）

青木 一憲	兵庫県立こども病院 小児集中治療センター 集中治療科
勝田 友博	聖マリアンナ医科大学小児科
椎間 優子	兵庫県立こども病院 小児集中治療センター 集中治療科
宮下 徳久	兵庫県立こども病院 小児集中治療センター 集中治療科
宮本 雄策	聖マリアンナ医科大学小児科
山岸 知子	聖マリアンナ医科大学小児科

プログラム委員（50音順、敬称略）

伊藤 陽里	京都田辺中央病院 小児科
大林 樹真	聖マリアンナ医科大学 小児外科
黒澤 寛史	兵庫県立こども病院 小児集中治療センター 集中治療科
笹岡 賢一	川崎市消防局
坂本 佳津子	兵庫県立こども病院 看護部
清水 直樹	聖マリアンナ医科大学小児科学講座
制野 勇介	国立循環器病研究センター集中治療部
竹井 寛和	兵庫県立こども病院 救急科
立石 順久	千葉市立海浜病院 救急科
新田 雅彦	大阪医科薬科大学 救急医学教室
野澤 正寛	滋賀県立総合病院 救急科・小児救急科
不田 貴希	姫路赤十字病院 看護部
宮下 徳久	兵庫県立こども病院 小児集中治療センター 集中治療科
吉田 拓司	東京都立小児総合医療センター

アドバイザー

浮山 越史	杏林大学小児外科
日沼 千尋	天使大学看護学科
藤谷 茂樹	聖マリアンナ医科大学救急医学
古田 繁行	聖マリアンナ医科大学小児外科

広報委員（50音順、敬称略）

相葉 裕幸	聖マリアンナ医科大学 感染症学講座
青木 一憲	兵庫県立こども病院 小児集中治療センター 集中治療科
大林 樹真	聖マリアンナ医科大学 小児外科
栗原 八千代	聖マリアンナ医科大学 小児科
椎間 優子	兵庫県立こども病院 小児集中治療センター 集中治療科
山田 万里央	聖マリアンナ医科大学 救命救急センター

査読者（50音順、敬称略）

有吉 孝一	神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター
安 炳文	京都第一赤十字病院 救急科
安藤 寿	北里大学 医学部小児科学

池山 貴也	あいち小児保健医療総合センター 小児救命救急センター
石川 順一	大阪市立総合医療センター
石川 暢己	福井県立病院 小児外科
石原 唯史	順天堂大学医学部附属浦安病院
泉 裕之	板橋区医師会病院 小児科
伊藤 英介	済生会滋賀県病院 小児科
伊藤 友弥	あいち小児保健医療総合センター
井上 岳司	大阪市立総合医療センター 小児脳神経・言語療法内科
伊原 崇晃	兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科・小児救命救急センター
今井 博則	筑波メディカルセンター病院
岩出 珠幾	石川県立中央病院 小児外科
植田 育也	埼玉県立小児医療センター
内田 恵一	三重県立総合医療センター
宇津木 忠仁	伊東市民病院 心療内科
梅田 勝	東京工科大学名誉教授
梅原 直	聖路加国際病院 小児科
梅原 実	うめはらこどもクリニック
大島 誠	総合病院国保旭中央病院
大森 多恵	墨東病院 小児科
岡田 忠雄	北海道教育大学 養護教育専攻
岡田 広	松戸市立総合医療センター 小児科・小児集中治療科
岡本 吉生	香川県立中央病院 小児科
起塚 庸	高槻病院
萩原 重俊	手稲溪仁会病院
奥山 直樹	新潟県立中央病院
奥山 宏臣	大阪大学 小児成育外科
賀来 典之	九州大学病院 救命救急センター
柏木 充	市立ひらかた病院 小児科
加藤 隆宏	医誠会国際総合病院 救急科
神山 雅史	大阪市立総合医療センター 小児外科
川崎 達也	静岡県立こども病院 集中治療科
川嶋 寛	埼玉県立小児医療センター 小児外科
河畑 孝佳	石川県立中央病院
菊池 健二郎	埼玉県立小児医療センター 神経科
木村 光一	医療法人きむらアレルギー・こどもクリニック
木村 翔	東京女子医科大学 八千代医療センター 小児集中治療科
黒田 達夫	神奈川県立こども医療センター
小泉 敬一	山梨県立中央病院 小児科
後藤 保	鳥取県立中央病院 小児救急集中治療科
小松 充孝	賛育会病院 小児科
古村 眞	東京大学
齊藤 修	東京都立小児総合医療センター
坂本 昌彦	佐久総合病院佐久医療センター 小児科
櫻井 淑男	埼玉医科大学総合医療センター、小児救命救急センター
笹岡 悠太	市立函館病院
佐藤 厚夫	たかさか小児科
佐藤 工	弘前総合医療センター 小児科

澤井 利夫	浜松医科大学附属病院 小児外科
清水 義之	大阪母子医療センター集中治療科
志馬 伸朗	広島大学大学院医系科学研究科 救急集中治療医学
城田 千代栄	名古屋大学大学院 小児外科学
杉山 正彦	埼玉県立小児医療センター
鈴木 雅子	国際医療福祉大学 成田看護学部
鈴木 康之	東京女子医科大学 麻酔科
高間 勇一	大阪市立総合医療センター 小児外科
竹井 寛和	兵庫県立こども病院 救急科
田中 潔	北里大学 小児外科
田中 秀明	福島県立医科大学附属病院 小児外科
田中 亮二郎	兵庫県立こども病院
鉄原 健一	兵庫県立こども病院 総合診療科
寺井 勝	千葉市立海浜病院
照井 慶太	自治医科大学 小児外科
問田 千晶	信州大学 医学部救急集中治療医学
東間 未来	茨城県立こども病院 小児外科
中川 聡	国立成育医療研究センター
西尾 利之	にしお小児科クリニック
西岡 正人	川口市立医療センター 小児科
西田 志穂	共立女子大学 看護学部
西村 奈穂	国立成育医療研究センター 集中治療科
野上 恵嗣	奈良県立医科大学 小児科
野澤 正寛	滋賀県立総合病院 救急科・小児救急科
萩原 佑亮	東京都立小児総合医療センター 救命救急科
橋詰 直樹	久留米大学 小児外科
濱田 洋通	千葉大学医学部附属病院 小児科
林 拓也	神奈川県立こども医療センター
林 卓郎	兵庫県立こども病院
尾藤 祐子	神戸大学大学院医学研究科 外科学講座小児外科学分野
平井 克樹	熊本赤十字病院 小児科
平川 均	東海大学八王子病院 小児外科
平田 倫生	日本女子大学 家政学部児童学科
藤澤 盛樹	四天王寺大学 看護学部
藤代 準	東京大学 小児外科
藤野 明浩	慶應義塾大学 医学部小児外科
藤本 保	大分こども病院
藤原 直樹	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児集中治療科
古田 繁行	聖マリアンナ医科大学 小児外科
古野 憲司	福岡赤十字病院
堀川 慎二郎	富山県立中央病院 集中治療科
馬路 智昭	桑名市総合医療センター
松永(藤浪) 綾子	聖マリアンナ医科大学 小児科
南野 初香	聖隷三方原病院 小児科
武藤 順子	東京女子医科大学八千代医療センター
武藤 充	医療法人椎原会 有馬病院
森地 振一郎	東京医科大学 小児科・思春期科学分野

八木	信一	八木小児科医院
山本	英一	愛媛県立中央病院
吉丸	耕一朗	九州大学病院 小児外科・成育外科・小腸移植外科
吉元	和彦	熊本赤十字病院 小児外科
渡辺	章充	総合病院土浦協同病院 小児科
渡辺	稔彦	東海大学医学部 小児外科
渡井	有	昭和医科大学 小児外科

**第17回日本蘇生科学シンポジウム
プログラム委員（50音順、敬称略）**

榎本	有希	筑波大学医学医療系 救急・集中治療科
賀来	典之	九州大学病院 救命救急センター
塚原	紘平	岡山大学病院 高度救命救急センター
野澤	正寛	滋賀県立総合病院 救急科・小児救急科